

子育て支援 すきっぷ・もっく
城北高等学校
阿部柚奈・久次米琉衣・新谷彩乃



①テーマ

- ・共働きが多く仕事で忙しく子育てができない親たちが多い世の中でどのような支援を行っているのか
- ・子どもたちのために徳島県ではどのような活動が行われているのか

②目的

徳島県の子ども支援施設であるすきっぷ・もっくはどのような活動が行われているのか

③実践者

阿部柚奈・久次米琉衣・新谷彩乃

④期間

7月～12月下旬

⑤場所

徳島市籠屋町1-14近藤ビル

⑥内容

徳島県の子ども支援施設すきっぷ・もっくにどのような取り組みを行っているのかフィールドワークに行った

⑦結果

- ・商店街の空き店舗を活用→過疎化を防ぐ
- ・子育てに関する相談・援助をアドバイザーやスタッフが家庭的な空間で応じてくれる施設
- ・杉やヒノキでできた木球プール,おもちゃ,施設
→戦争で焼け野原になった地域の復興のために植えられた木を利用

- ・県外出身の親の「ママ友が欲しい、子どもを預けたい」などの夢を叶えるため
 - ・お悩み相談の時間帯が利用者が多い
 - ・木を利用する効果
- 男性でも入りやすい・木のおもちゃのみでたくさん遊び方が
ある・木の匂いは癒し効果がある
- ・女性より男性のほうが利用者が多い(もっく)

共働き,一人っ子が増加している近年,このような施設があることはたくさんの方が認識しておくべきことだと感じた。(子どもにも親も利点が多い) 子育ては母親がという考え方が少なくなり女性が社会に出るようになってきたが,未だに子育ては圧倒的に母親が多いから施設の利用者は当然母親が多いと予想していましたが父親のほうが多いという結果に驚いた。